

第3回 令和元年度 水道分野における官民連携推進協議会
グループディスカッションでの意見交換の概要

テーマ3 広域化に対する取り組み

■ 水道事業者

- ・ 民間事業者にとって、広域化に伴うメリット・デメリットは何か。また、どのような点に留意すれば、広域化を効率的に進めることができるのか。民間事業者から助言や支援をいただけることがあれば教えて欲しい。

- ・ 民間事業者：広域化による民間事業者にとってのメリットは、最新の ICT 技術の活用などを積極的に推進してもらえないか。デメリットは、強いて言えば広域化が進むに伴って色々と効率化され、事業機会を喪失する可能性があることである。
- ・ 民間事業者：それぞれの水道事業者ごとに制度などが違うため、一気に事業統合することは難しい。システムの共同化などできるところから進めていくことが考えられる。
- ・ 水道事業者：現在、広域化についての勉強会などを開催しているが、それぞれ温度差がある。今後は地域別に自由な意見交換の場を設けていながら、事業統合に拘らない包括的な業務委託など、実現可能なものから取り組むことを進めている。
- ・ 民間事業者：事業統合をしなくても料金関係業務をまとめることは可能であるものの、料金システムが異なる場合には実現困難になるため、システム周りの統一が課題であると考えている。
- ・ 座長：共同発注などソフトな部分からスタートし、最終的に広域化を目指していくことが考えられるが、中々進んでいないのが現状であると認識している。できるところから進めていくことが重要である。

■ 水道事業者

- ・ 今後広域化を検討するにあたり、自らの団体にはどのような形が最も適しているのか。そして、その内容をどう「見える化」して内外に伝えていけばよいか、手順などのヒントについて教えて欲しい。

- ・ 座長：広域化の中でも特に事業統合は最終形態としての考え方・位置付けとなるものがあるが、その前にいくつかのステップに分け、まずは水質検査の共同発注などから段階的に進めていく方法もある。都道府県単位や用水供給を受けている団体間では比較的まとまりやすいと考えられるので、広い視野で検討していくのが良いと思われる。

■ 水道事業者

- ・ どういったプロセスを経て広域化を進めていくかが課題となっているので、参考になる具体的な事例を教えて欲しい。

- ・ 民間事業者：当社は、水道事業者との話し合いを通じて一緒に検討していく中で最適な手法を考えているため、まずは意見交換の場を設けて欲しい。
- ・ 民間事業者：日々、様々な民間事業者が水道事業者を訪れていることと思われるので、少し気軽に営業担当者に色々聞いてみるのも民間活用の一つの方法ではないか。

- ・ 水道事業者：近隣では当団体が一番大きな水道事業体なので、先導して各水道事業者と勉強会などを開催している。同じような課題・悩みを抱えている水道事業者は周囲にいるはずなので、まずは声をかけて始めてみるのが大事だと考えており、そのように進めているところである。
- ・ 座長：近隣・周辺の水道事業者とまずは話をしてみて、お互いの課題が何かを考えながら、事業統合というよりも一緒に解決できるものはないかという観点から、民間の意見も聞きつつ検討を進めていけば、何か見えてくるのではないだろうか。

■ 水道事業者

- ・ 広域的に連携する方策について、近隣水道事業者と勉強会などを実施して検討を進めているものの、当団体では人員が不足していることもあり、民間事業者との連携も不可欠だと考えている。民間事業者ごとに色々な経験・実績があると思われるので、それぞれの得意分野からの助言・支援について教えて欲しい。

- ・ 民間事業者：具体的な課題を伺ってからのの方が充実した提案が可能になるため、直ちに詳細な説明をするのは難しいが、常々、テーマを絞って皆で話し合う機会があれば良いと感じている。その上で、実際にどう進めていくか、費用はどのくらい必要かなど、細々した点はコンサルタントを活用していただけたらと思う。
- ・ 民間事業者：直接的な回答にはならないが、都道府県営水道や水道用水供給事業のような広域的な事業・経営の土壌が既にあるかないかが大きく影響すると考えている。まずは小さな水道事業者も気軽に意見交換が可能な場をつくるところから始め、広域的に展開できる土壌をつくっていくことが重要になると考えられる。
- ・ 座長：利用可能な補助金なども活用しつつ、官民連携も含めて検討を進め、基盤を強化していただけたらと考える。

■ 水道事業者

- ・ 広域化に際し、自らの団体にはどのようなメリットがあるのか、住民や外部への説明が難しいと感じている。

■ 水道事業者

- ・ 広域化を進める上で様々な課題があると感じているが、民間事業者の力も借りて、できるところから進めていきたいと考えている。

■ 水道事業者

- ・ 今後、より広域的な連携を見据えた事業・経営の展開を検討していかなければと考えている。

- ・ 民間事業者：（意見交換、視察など）他の水道事業者がどのような考えや取組みをしているか、実際に目にする機会を増やすことも効果的な一手段であると考えている。
- ・ 民間事業者：中核となる水道事業者のメリットについては、例えば、近隣水道事業者の料金などの窓口を中核水道事業者のところに集約し、窓口を廃止したことで浮いたコスト（の一部）を中核水道事業者に還元する方法も一案ではないか。

- ・ 民間事業者：最終的には、都道府県などによるトップダウン的な進め方も必要・重要になってくると思われる。
- ・ 民間事業者：現在、各都道府県が「水道広域化推進プラン」の策定を進めていると思うが、そこで出された具体的な案に対し、民間事業者が協力できるものがあるのではないかと考えている。その上で、各水道事業者としてはどのようなものであれば進めやすいと感じているか、ご教示いただければありがたい。
- ・ 水道事業者：中小水道事業者としては、先に一つの形をイメージして進めていく方がやりやすいと思う。ある程度大きな水道事業者は、住民への説明を考慮すると、できるところから少しずつ進めていく形になるのではないか。
- ・ 座長：広域化を進める上では、まずはお互いが win-win になるところを見つけていくことが大事であるとする。

以 上